

2025年度 佐久長聖高等学校 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重し、楽しく充実した学校生活を通して、生徒たちが魅力的な人間に成長できる環境整備を積極的に推進する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 魅力ある授業を生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 生徒の進路実現に向けて、進路指導體制の発展に努める。 生徒との前向きな対話のある 生活指導・学級運営を行う。 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 学校の教育活動を生徒や保護者、本校志願者、地域に対し、幅広く情報発信を行う。
------	--

評価
A: 十分
B: 概ね十分
C: やや不十分
D: 不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導 進路指導	生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業が行えたか。	B	「理解する」ことは分かる喜びに繋がり学ぶ意欲になると思っているため、できる限り生徒に発言する機会を増やし「理解する」ことに努めた。／授業アンケートの内容や生徒の声を参考に改善した。／生徒の主体的な学習姿勢が定着し、準1級取得を具体的な目標として自律的に取り組む生徒が増加した。数値成果のみならず、学習意欲および満足度の向上という質的成果にもつながっている。	学びたいと思う展開や構成を再度考える必要があると感じている。／一部の生徒がAI検索により、単に解法を得て、解答をコピーする様子が見られる。／コーチングでなく、ティーチングがまだまだ多くなってしまっている。／振り返りを具体的化し、思考を深められるようにしたい。／英語4技能をまんべんなく鍛えるために、インプットだけでなくアウトプットは必要であるが、まずは生徒自身のやる気を促さなくてはいけないと感じた。
		問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業を展開できたか。	B	生徒に様々な場面でプレゼンテーションをさせ、これから必要な能力を得るために何が足りないかを理解する機会を設けた。／生徒がお互いに教え合う姿が見られてきたので、成果を感じる。／まず教員が、「問題発見の技術」を提示することが必要。「物事の本質に迫る問い」を常に心がけている。／基礎基本の学びから、条件を変えたり、場面を変えて考えたりする場面を多く設定することで、生徒たちの学びが深まった。	やりっ放しになってしまい、評価するところや添削するところが不十分であった。／PowerPointでの授業は「型」にはまり過ぎて、ライブ感や面白味に欠けることもあった(例えるなら「冷凍食品」)。／意見を言う生徒が固定化してしまうことがあった。生徒自らが課題を見つけやすい授業設計をしたい。／クラス・講座によって問いかけの発話を変えたり、どこまで深めるかは進度によっても違うのでそこが難しい。
		生徒の希望進路を実現するために、大学入試についての研究を行い、生徒個々に対応した指導が行えたか。	B	毎年積み重ねてきた志望理由書、面接指導が役立つ。／昨年度までより一人一人にじっくり面談できる態勢に改善されたと感じた。／少なくとも自分自身(教員)が楽をしない進路指導はできているといえる。／外部の研究会に参加し、総合型や学校推薦型入試対策に活かすことができた。／授業で毎回ドリルを行っているが、大学の過去問を出題し大学入試を意識させるようにしている。	演習に用いた入試問題をきちんと整理してこなかったため、二度手間三度手間になることが多かった。／「情報」の共通テストは今年度で2度目のため、まだまだ傾向などがつかみづらいので、更なる研究が必要。／親子で進路の方向性が一致しない場合について、教員としてどこまで口出して良いものなのか難しい判断があった。／総合型・推薦型入試の利用者が年々増加し、教師1人当たりの担当生徒数が増えているため業務量が大きく大変である。
		大学のさらに先を意識しながら進路を考えられるようなキャリア教育や進路指導を実践していたか。	B	一般選抜の生徒では、共通テストが難化したため自分のいける大学のレベルを下げざるを得ない生徒もいた。しかし事前に自分の将来のビジョンを深めており、自分のやりたいことのできる大学を段階的に選んでことから不本意な大学変更とはならずモチベーションを高めた状態で今現在も学業に励んでいる。／1学年の文理選択についてそれぞれの特性や進路を踏まえて支援ができたと感じる。	家庭環境により出願先が制限されてしまうことがあり、教員としてどこまで踏み込んで良いものなのか難しい判断があった。／近年の総合型・学校推薦型の募集定員の拡大には、我々教員側もアンテナを高めて情報を収集しなければならない。／大学での学びにあまり関心がないように感じられる生徒もおり、自己理解を深めるような意識付けがさらに必要だと感じた。
2	生徒指導	校内外問わず、いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校を送るための啓発活動を行い、情報収集を行えたか。	B	月一回の個人面談、欠席した生徒への家庭連絡、寮との連携など、話を聞くことを心掛けた。／生徒間でトラブルがあったが、保護者にも連絡を取りながら協力してもらい解決できた。／校外や寮内の見回りを計画して実施するなど、トラブルを未然に防ぐ取り組みを行った。／生徒たちの話題を拾ってクラス全体に投げかけ、当事者としての思いを想像させたり、客観的な視点からの感想を意見交換させたりした。	生徒や保護者から何かが起こった時に相談を貰っていたので「何かが起きない」ようにもっと精進したい。／こちらが伝えたいことが生徒にしっかりと伝わるよう引き続き指導していきたい。／SNSやネット上のやり取りについてはなかなか把握が難しく、苦慮している。／現在でも行っているが、外部の方との連携をさらに増やしたい。／自主的に生徒が考えられるように仕向けられる指導を心がけたい。
		生徒に体罰や暴言と捉えられるような言動を行わなかったか。	B	否定的な表現は使わない、個人面談は、第三者がいるまたは閉鎖的にならない場所で行うなど、気を付けた。／生徒を尊重する姿勢を心がけたことにより、生徒だけではなく保護者からも細かい相談を受けることが多くあった。／指導が必要な場面においても、感情的な対応を避け、冷静かつ丁寧な言葉掛けを心掛けることで、信頼関係を損なわない指導を徹底してきた。	生徒の捉え方もあると思いますが、雰囲気などから話しにくいなどの受け取り方をしている生徒もいるかもしれない。／「叱る」と「怒る」ことが、生徒の受け止め方で変わるので、境界線を教員側で線引きすることの難しさを感じている。／「自分は大丈夫」と思わないことが何よりだと思っている。／生徒との信頼関係により受け取り方が変わるので、信頼関係が築けるよう努めたい。
3	保護者連携 地域連携	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	気になることなど、小さなことでも保護者と連絡を取り合うことを心掛け、メールより、まず電話で話をするようにした。／何かしら意見があった場合は、きちんと事実確認をしたうえで対応できている。／地域の方ともコミュニケーションを多く取れ、情報も多くいただいた。／保護者と生徒の主張の両方に耳を傾け、どちらも納得できる形での問題解決に努めている。／保護者からの着信やメールなどには休日など関係なく対応できた。	なかなか連絡を取りにくい家庭がありその対応が難しい。／匿名性は使い方を間違えると混乱を起こすと感じたため、匿名にしなくても声をあげられるような関係性を築きたい。／夜遅くや休日にも保護者からの連絡があり、苦慮している。／生徒同士の問題について、保護者の過剰な介入が逆に解決が難しくなる事案もあったので、保護者への注意喚起も必要と感じた。／
		ホームページ・Classi等で積極的に学校・学年・学級・クラブ等の情報発信ができたか。	B	電子機器の良いところを活かし、Classi、クラスルーム、ロイロを使い業務にあたることができた。／毎週1回～3回の頻度で学級の様子を発信できた。／箱根駅伝などの卒業生の活躍で「佐久長聖高校」が多くメディアに露出し、本校を知ってもらえるきっかけとなった。／3年間、学年団・保護者・生徒グループを通じて情報発信を密に行うことで「チェックする習慣」がつかため、重要な情報の共有が生徒不在の期間でも可能になった。／	入学を考えている保護者はまずホームページから本校に触れると思う。時代に合った魅力的なホームページ作りをさらに研究し、改善していく必要があると感じている。／情報発信が特定の担当者に依存しやすい点や、発信内容・頻度にばらつきが生じる点が課題である。／受け手の立場を意識し、より分かりやすい表現に努めたい。